

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第356号
平成28年4月28日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

三つの「さしすせそ」

校長 鈴木 隆志

先月14日から続いている熊本地震は、マグニチュード7.3の大地震で、前震・余震を含め950回を超える地震が発生しています（4月27日現在）。多くの方々の尊い命が失われ、被災地では甚大な被害を被りました。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興を祈るばかりです。

◆危機管理の「さしすせそ」

さ：最悪の事態を考え／し：慎重に／す：素早く／せ：誠実に／そ：組織的に

子供たちの生命、安全、健康に関することは全てに優先します。学校では、火災、地震等の災害や不測の事態に備えて、日頃から避難訓練等により、危機管理対応力を強めていきます。また、東日本大震災の教訓から平成23年度に見直しをした危機管理マニュアル（火災・地震・不審者）に則り、光八小地域防災連絡会や学校サポートチーム（学校応援団）との連携・協力も図りながら、適切な対応をしていきます。危機管理の「さしすせそ」を常に心がけています。

◆声かけの「さしすせそ」

さ：さりげなく／し：しずかに／す：すっきりと／せ：せかさず／そ：そっと

学校でも家庭でも地域でも、子供たちへの声かけはとても大切です。光八小では、「チーム八小・アクションプラン」の一つとして、『校内でも必ず「こんにちは」の声をかける』ことにしています。「おはよう」は誰でも言えることですが、「こんにちは」は意図的に仕組んでいかなないと出てこない言葉です。挨拶ができる子供に育てたいということだけでなく、子供たちの自己有用感や帰属意識を育むことにもつながります。それだけでなく、子供の心の状態をつかむこともできます。子供たちの中には、朝は寝起きが悪くて挨拶が苦手な子もいます。そんな子も、「こんにちは」でリセットできるようです。また、コミュニケーション障害の子も挨拶は苦手です。そのような子にも繰り返し声をかけることで、相手意識が芽生え、挨拶の声が返ってくるようになります。

挨拶だけではありません。日常のあらゆる声かけが子供たちを健全に育てていくのです。家庭でも地域でも、声かけの「さしすせそ」を心がけていきましょう。「共創」の思いです。

◆「さしすせそ」の願い

さ：早寝早起き朝ご飯で、わやかに
し：自分の思い、考えを、っかり伝えて
す：分かるまで、できるまで取り組んで、っきりと
せ：うそをつかず、々堂々と
そ：よいこと、親切は、先して

学校は子供たちのためにあります。学校に受容的、共感的、肯定的な雰囲気があふれる時（「包容」）、全ての子供にとって、学校は楽しく、やりがい、生きがいのあるものとなるのです。光八小は、安全・安心で、明るく、楽しく、生き生きとした学校を目指します。